

挑む!

子どものネット教育に取り組む

おくの あさひ  
奥野 朝陽さん(23)

## オフラインでよりどころを

インターネットの正しい使い方を子

を直接教える取り組みも始める。

どもに伝えようと、2年ほど前から兵庫  
県を中心に100回以上、出前講座  
を開いてきた。今年度は主に小中学生  
を対象に計5カ所で集会を開き、リー  
ダー役の子どもたちにネットの危うさを直接教える取り組みも始める。  
社会教育などに関心を持ち、兵庫県  
立大学に進んだ。子どものネット教育  
をテーマにした研究室で学び、一般社  
団法人「ソーシャルメディア研究会」  
に参加し、出前講座を続けてきた。

神戸市生まれ。ソーシャルメディア研究会(ka@sma2.jp)の一員として、この夏も離島で開く「オフラインキャンプ」の準備を進める。

ネットに依存する子どもはリアル(現実)社会よりも、ネット世界に居場所を求める傾向が強い。だが、現実にはネットでトラブルになり、自ら命を絶つ場合もある。「唯一のよりどころであるネットで否定されたら、生きていくのもつらくなるでしょう」

昨年、離島でオフラインキャンプを企画。14人のネット依存の子どもと5日間を過ごす。食事づくりやカヌー、海水浴。多くのイベントを盛り込んだのは、人とつながる楽しさを知って欲しかったから。鬼ごっここの輪に加わった中学生の姿を見るとうれしかった。

今春から、兵庫県たつの市の小学校で介助員をしながら通信制大学で学び、小学校教諭を目指し始めた。「子どもに寄り添い、ネット以外のよりどころをつくってあげたい」

文・写真 神元敦司

記者から

経験に裏打ちされた自信がみなぎっていた。発する言葉一つひとつが、ずしりと重たかった。